

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち			
施策	番号	4	名称	歴史文化を活用する観光の振興			
主担当部	総合政策部		主担当課	観光政策課		部長名	杉田幸司
関係部			関係課	企画政策課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	豊かな文化遺産と伝統的行事を観光資源として、それらの魅力をさらに引き出し、積極的に活用し、効果的にPRすることにより、多くの観光客が本市を訪れるとともに、市民が郷土に対する誇りを持ち、もてなしの心で観光客を迎えることで、人々の交流による賑わいと活気を生み出す。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	観光客を引き付ける魅力的なイベントの開催が引き続き求められているが、年間を通して国の内外からの宿泊を伴う誘客を導く観光ルート(商品)の作成や観光資源のブラッシュアップにも一層取り組む必要がある。また、そうした本市の魅力、「榎原ブランド」をあらゆる手段を講じて全国、世界へと発信していくことが重要となっている。中中和としての広域の観光力の底上げが求められている。	訪日客数は、2003年の5,211,725人から2014年の13,413,467人へと約2.5倍に増加し、さらに2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」が策定されるなど、2000万人を目指すための環境整備が進められている。また、県内でも宿泊者増に向けた取組み、Wi-Fiの整備や海外に向けたプロモーションなどのインバウンドの取組みが進められている。
これまでの成果	「春の神武祭」は、市民、団体の参画、来場者がともに増加し、奈良の三大祭として定着しつつある。また、26年度には首都圏での歴史シンポジウム開催や、東京・大阪の主要駅でのポスター掲出、雑誌広告掲載などにより「榎原ブランド」を発信した。インバウンドでは外国人向けバスツアー開催や3ヶ国語の観光パンフレットの一新を行い、第一歩を踏み出した。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	観光客総数	4,144,101	4,200,000	4,521,130	4,600,000	4,700,000	4,800,000	
	施策指標② (成果指標)	ボランティアガイド案内客数	7,466	8,000	7,140	8,000	8,100	8,200	
	施策指標③ (成果指標)	観光交流センター来訪者数	275,600	280,000	284,610	290,000	295,000	300,000	
	施策指標④ (成果指標)								
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
	歳出 (直接事業費)(a)		175,696	159,474	154,911	199,298			
	歳入 (b)	受益者負担額	0	700	609	700			
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	25,118	1,746	2,379	9,069			
	(a)-(b)=一般財源		150,578	157,028	151,923	189,529			
	正職員	従事者数 (単位:人)	6.35	5.45	5.45	6.45			
		人件費(c)	39,192	35,425	35,425	41,925			
トータルコスト (a)+(c)		214,888	194,899	190,336	241,223				

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	「榎原ブランド」の全国への発信においては、首都圏シンポジウム、大都市圏でのポスター掲出、雑誌広告の掲載などに取り組み、「榎原」の露出、知名度のアップにつなげたが、今後も費用を抑えながら露出を増やす取組みが求められる。インバウンドについても、バスツアー参加の外国人からは概ね好評を得たため、この小さな取組みを発展させるとともに、情報発信と受入態勢の充実を図ることで、さらなる外国人観光客の誘客の拡大につなげることができる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	観光客数は緩やかではあるが、着実に伸びている。魅力ある事業、周遊型の事業を展開するとともに、効果的なPR発信を行うことにより、さらなる観光客の増加、滞在時間の長期化が図られ、経済効果が期待される。				

6. 施策の課題

この施策の課題	魅力あるイベントの開催、素晴らしい観光名所とそれをつなぐルートの創生も、外向きの情報発信なしには誘客につなげることはできない。全国、海外からの来訪を促すため、効果的な広報手段を費用対効果を勘案しながら選択するとともに、費用をかけないSNSなどの活用を図らなければならない。特に、宿泊を伴う来訪者の増加を図るためには、来て、楽しんで、再び訪れたいと思う観光商品の開発とそれらを関連付けた情報発信を効果的に行うことが急務となっている。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	平成27年度、28年度には、市制60周年、宮崎市姉妹都市締結50周年、神武2600年などの節目の年を迎え、平成30年度には八木駅前の公設ホテルがオープンする。これらを踏まえ、関係機関、団体、マスコミ、交通事業者などと連携を取りながら、魅力あふれる誘客事業、「榎原ブランド」の情報発信事業を展開する。また、インバウンドにも積極的に取り組み、受入態勢の充実を図る。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	市制60周年、神武2600年に向け、春の神武祭をはじめとするイベントの開催内容を見直しながら充実とPR拡大を図る。経済効果の高い宿泊を伴う誘客を進めるため、インバウンドや全国に向けた効果的な観光PRと観光客の満足度を高め、リピーターにつなげる着地型の周遊プランを実施する。施設の適正な維持管理や運営を継続して行うと共に、わかりやすく統一された案内サインを順次整備することで広域的な周遊観光の実現を目指す。市内で開催される行事内容や開催スケジュールの告知を各種媒体を通じて行うことにより、本市の伝統的行事等への理解を深め保存や継承を促していく。近隣市町村と連携した広域観光による魅力発信を行う。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH26決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	企画政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●冊子の販売促進・管理 ●冊子「藤原京と大宝律令」、「権原いろはかるた」(平成14年度作成) ●古道図書「歴史の道を行く」(平成20年度作成) ●古道絵はがき(平成23年度作成) 	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	B
	権原の魅力発信事業 (ソフト(任意))		800 (千円)			
2	観光政策課	各種行事助成事業 市内各地で開催される行事を①広域的地域催行事②伝統的芸能行事③歴史的顕彰行事の3つのカテゴリーに分類し、行事を主催する団体に事業費の助成を行う。また、ソフト面の支援として各行事の開催内容やスケジュールの告知を市ホームページ、マスメディア、観光交流センターLEDビジョンを通じてPRする。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	B
	各種行事補助金交付事業 (ソフト(任意))		3,942 (千円)			
3	観光政策課	1.「春の神武祭」行事助成事業 毎年4月に行われる「春の神武祭」の実施団体である春の神武祭実行委員会に事業費の助成を行うとともに、市も実行委員会の一員として、春の神武祭事業に係る事務の過半を担う。 2.「権原夢の森フェスティバル」行事助成事業 毎年10月に行われる夢の森フェスティバルの実施団体である権原夢の森フェスティバル実行委員会に事業費の助成を行うとともに、市も実行委員会の一員として、その事務に従事する。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	B
	観光イベント実施事業 (ソフト(任意))		30,923 (千円)			
4	観光政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●窓口や電話、メール等での観光案内や観光問い合わせの回答 ●観光プロモーション ●観光マスコットキャラクターによる観光PR ●観光パンフレットの作成配布 ●大都市圏での誘客事業 ●観光商品の創生(H26はインバウンドバスツアー) ●大和三山の眺望確保(H26は耳成山) ●中南和の観光情報発信 ●その他、書籍等の販売、各種加盟団体への参加、調査研究等 	1 拡大する	a	拡大する	A
	観光啓発事業 (ソフト(任意))		25,716 (千円)			
5	観光政策課	①案内道標、観光案内板、道路標識等の設置・管理 ②今井町夢ら咲長屋の借上げ及び夢ら咲長屋、藤原京資料室への案内人の配置 ③観光トイレ等の建物管理 ④奈良文化財研究所藤原宮跡資料室の休日開館に関する案内及び警備業務	1 拡大する	a	拡大する	
	観光利便施設事業 (内部管理・維持管理)		13,733 (千円)			
6	観光政策課	(一社)権原市観光協会が、観光の担い手となるよう協会の運営や事業に必要な市で定めた額を助成する。 ○権原市観光協会運営補助金 ○権原市観光事業補助金(観光ボランティアガイド運営事業・権原市観光親善大使「さらら姫」の選出並びに運営事業・レンタサイクル運営支援事業・ナビプラザ物販運営補助事業等)	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	B
	(一社)観光協会運営・事業助成補助事業 (ソフト(任意))		29,203 (千円)			
7	観光政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●マスコミや電鉄・バス会社、旅行社、地域のNPO団体などが実施するウォークやシンポジウムといったイベントを誘致する。 ●奈良県中南和地域の市町村と連携し、観光情報の発信や普及啓発を行う。 ●フィルムコミッション活動を活発に行い、テレビドラマや映画のロケ地として、本市が舞台となるようにはたらきかけていく。 ●国土交通省や観光庁の補助事業に積極的に応募していく。 	1 拡大する	a	見直しながらかつ続ける	B
	イベント誘致事業 (ソフト(任意))		564 (千円)			
8	観光政策課	複合施設である観光交流センターを管理運営する。 全館の建物管理と観光センター(1・2階)の運営を行う。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	
	権原市観光交流センター管理運営業務 (内部管理・維持管理)		50,030 (千円)			

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月5日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

PLAN
計画

事務事業名	檀原の魅力発信事業						
担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	庵坂 和史		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち				
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興				
予算事業名	企画調整事務費						
事業の開始年度	平成	14	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度
対象	市民・県民・国民			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ●冊子の販売促進・管理 <ul style="list-style-type: none"> ・冊子「藤原京と大宝律令」、「檀原いろはかるた」(平成14年度作成) ・古道図書「歴史の道を行く」(平成20年度作成) ・古道絵はがき(平成23年度作成) ●市政情報発信事業 <ul style="list-style-type: none"> ・放送媒体の利用によるPR ・市政情報についてのラジオ特別番組の制作及び放送 		
事業の目的	檀原の魅力を発信することで、檀原に関心を持つ人や、来訪者の増加を図る。また、市民の方には、檀原市が有する歴史遺産の素晴らしさを再認識してもらう。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明	市の魅力をPRする事業であるため、市が積極的に取り組んでいくべきものである。				
		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
		説明	書籍等の販売を中止すると、当初見込んだ収益が得られなくなる上に、在庫を抱えてしまうことになる。				

DO
実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	販売数	565	600	434	600	600	600
活動指標①	イベント販売回数	1	3	1	3	3	3
活動指標②	販売店舗数	9	8	6	8	8	8
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出(直接事業費)(a)		900	800	800	400	
	歳入(b)	受益者負担額					
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
	(a) - (b) = 一般財源		900	800	800	400	
	正職員	従事者数(単位:人)	0.15	0.15	0.25	0.25	
		人件費(c)	926	975	1,625	1,625	
	トータルコスト(a)+(c)		1,826	1,775	2,425	2,025	
単位当たりコスト	計算式等 ()/()						
備考 (これまでの実績等)							

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	古道図書、藤原京と大宝律令及び古道絵はがきの販売総数は、昨年度よりも減少している。市政情報発信業務は、年間2回のラジオ特別番組を聴取者の多い時間帯にタイムリーな情報を放送しており広範囲への情報発信している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	市外の人に市の歴史・史跡等に関心を持ってもらうことで、来訪者の増加につながり、観光の振興に寄与すると考えられる。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	販売を促進していくことで、歳入の増加をはかる。ラジオ番組制作費用は、交渉等により経費の削減に努めていく。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		市が実施するイベントや書店等での販売促進に努める。市政情報発信業務は、番組の告知を行い、聴取者数の増加を図る。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C	
説明			市が実施するイベントや書店等での販売を今後も継続していく。市政情報発信業務は、コストの削減と有効性の向上に図りつつ、継続して取り組んでいく。							

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	各種行事補助金交付事業								
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興						
	予算事業名	各種行事助成事業費								
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
対象	広域的地域催行事、伝統的芸能行事、歴史的顕彰行事(春の神武祭、夢の森フェスティバルを除く)			事業の 内容説明	各種行事助成事業 市内各地で開催される行事を①広域的 地域催行事②伝統的芸能行事③歴史的顕彰行事の3つの カテゴリーに分類し、行事を主催する団体に事業費の助成 を行う。また、ソフト面の支援として各行事の開催内容やス ケジュールの告知を市ホームページ、マスメディア、観光交 流センターLEDビジョンを通じてPRする。					
事業の 目的	檀原市内で開催される広域的地域催行事、伝統的芸能 行事、歴史的顕彰行事を保存し、後世に継承することを 目的とし、事業費の助成を行う。									
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
	説明	・檀原市補助金等交付規則 ・市内各地域の伝統的な行事を保存し、後世に継承することは市の責務である。 ・事業費の助成を行うことで行事運営を支援する。								
	やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	・各地域で伝統的行事等への参加者(特に児童)の減少や実施団体の高齢化で事業費の捻出が困難になることや見学者の増加により事業開催費のみならず見学者への対応にかかる警備費等の経費も大きな負担となっていることから、資金難により行事が存続できなくなる可能性がある。									
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	伝統的行事見学者数(ほうらんや+練供養)		6,000	6,000	6,100	6,200	6,200	6,200	
	活動指標①	行事開催件数(広域的地域催行事を除く)		13	13	13	13	13	13	
	活動指標②									
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)		3,942	4,104	3,942	4,104			
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源		3,942	4,104	3,942	4,104			
		正職員	従事者数(単位:人)		0.65	0.65	0.65	0.65		
			人件費(c)		4,012	4,225	4,225	4,225		
		トータルコスト(a)+(c)		7,954	8,329	8,167	8,329			
単位当 りコスト	計算式等 ()/()									
備考 (これまでの 実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	<ul style="list-style-type: none"> ・行事案内や開催スケジュールを各種媒体を通じて告知することにより県外からの見学者が増加している傾向にある。 ・少子高齢化の影響で行事の継承が困難になりつつある行事もある。 							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	地域の伝統的な文化の継承に寄与するとともに、行事等の内容、開催スケジュールの告知の強化により県外からの見学者も増加し、市の観光振興に寄与している。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	補助対象経費の項目については精査する必要がある。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		伝統的行事や祭礼は、いったん途絶えてしまうとその復元は困難を極めることから、必要十分な支援を実施することで、市の歴史や文化を保存し、継承していくことが可能となる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		D	
説明			<ul style="list-style-type: none"> ・事業費の一部として助成を継続して行っていく。 ・行事内容や開催スケジュールの告知を各種媒体を通じて行うことにより、本市の伝統的行事等への理解を深め保存や継承を促していく。 							

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	観光イベント実施事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興							
	予算事業名	各種行事助成事業費・観光対策費									
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度				
	対象	市民及び市外者		事業の内容説明	1.「春の神武祭」行事助成事業 毎年4月に行われる「春の神武祭」の実施団体である春の神武祭実行委員会に事業費の助成を行うとともに、市も実行委員会の一員として、春の神武祭事業に係る事務の過半を担う。						
	事業の目的	地域の各種団体が主体となって実施する観光イベントに参画及び助成することを通じ榎原市の賑わいを創出すると同時に、観光客の来市の契機となるよう市のプロモーションにつなげることを目的とする。			2.「榎原夢の森フェスティバル」行事助成事業 毎年10月に行われる夢の森フェスティバルの実施団体である榎原夢の森フェスティバル実行委員会に事業費の助成を行うとともに、市も実行委員会の一員として、その事務に従事する。						
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	本来は、地元が主体となって事業を実施すべきものであって、市はそれに対し助成する立場であるべきだが、春の神武祭については、現状、市が旗を振り、事業費を支出し、その事務の大半を担っている状況である。							
市の関与の必要性を評価してください		やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	「春の神武祭」「夢の森フェスティバル」は榎原市を代表する春・秋の一大イベントであって、取り止めた場合の影響は非常に大きく、何らかの代替措置がない時点での廃止は困難である。										
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)		
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標	来場者数(神武祭+夢フェス)		153,000	160,000	143,000	145,000	150,000	160,000		
	活動指標①	神武祭チラシ配布数		86,000	122,500	122,500	169,500	170,000	180,000		
	活動指標②	夢フェス実行委員会回数(幹事会回数)		7	7	6	6	6	6		
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			49,947	32,920	30,923	54,920			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)								
		(a) - (b) = 一般財源			49,947	32,920	30,923	54,920			
正職員		従事者数(単位:人)			1.40	1.20	1.25	1.35			
		人件費(c)			8,641	7,800	8,125	8,775			
トータルコスト(a)+(c)			58,588	40,720	39,048	63,695					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	来訪者からの評価は高いが、如何せん一過性のイベントであり、総合計画で目指されている「人と文化がふれあうまち」という都市像の実現の観点から成果が出ているとはいづらい面もある。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	広域から集客する催事として本市を訪れるきっかけの一つとはなっている。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	効率がどうか	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	これまで最小限の費用で最大限の効果が得られるように取り組んでいるが、職員やボランティア動員のあり方を再考することで、さらなる改善を図れる余地はあるものと考えられる。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		3Dマッピングやキャンドルライトアップは、来訪者からの評価は高いが、当該イベントに対する一過性の誘客の域を超えず、再考に値する。特に、夜間イベントは、そもそも市が保有する他の観光資源との連携が困難であるため、総合計画における「歴史文化を活用する観光の振興」策としての活用には向いていないと考えられるが、市内で実施される代表的なイベントである事実を否めず、今後の方向性については、学識経験者など有識者から意見を聴取するなどし、戦略的に取り組みを再構築することが求められる。なお、夢の森フェスティバルのように、各種団体が主体的に実施するものに対しては、行政として、本事業の目的に資する範囲内において積極的に助成することで、高い効果が期待できる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
		説明	単なる一過性のイベントとならないよう、檀原市全体のプロモーションの中での位置付けを明確にし、その在り方についても再検討していく。						

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	観光啓発事業							
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興					
	予算事業名	観光対策費							
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度		
	対象	観光客及び一般の人		事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口や電話、メール等での観光案内や観光問い合わせの回答 ・観光プロモーション ・観光マスコットキャラクターによる観光PR ・観光パンフレットの作成配布 ・大都市圏での誘客事業 ・観光商品の創生(H26はインバウンドバスツアー) ・大和三山の眺望確保(H26は耳成山) ・中南和の観光情報発信 ・その他、書籍等の販売、各種加盟団体への参加、調査研究等 				
	事業の目的	本市の歴史的遺産等の魅力を幅広くアピールし、もって多くの潜在的観光客が本市の観光資源に関心を持ち、観光に訪れることを目的とする。							
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
			2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
説明		市が企画し、観光協会が実施するという役割分担のもと観光事業を進めている。							
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
		説明	観光立市を掲げている本市において、事業をとりやめることで誘客が滞り、観光客が減少する。						
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
	成果指標	観光客総数		4,144,101	4,200,000	4,521,130	4,600,000	4,700,000	4,800,000
	活動指標①	観光パンフレット配布数		93,555	100,000	114,759	105,000	110,000	115,000
	活動指標②	誘客(委託)事業実施件数		3	4	4	5	6	7
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)		38,460	26,686	25,716	30,771		
		歳入(b)	受益者負担額		700	609	700		
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)	25,118	1,746	2,379	9,069		
		(a) - (b) = 一般財源		13,342	24,240	22,728	21,002		
正職員		従事者数(単位:人)	2.40	1.90	1.75	2.35			
		人件費(c)	14,813	12,350	11,375	15,275			
トータルコスト(a)+(c)		53,273	39,036	37,091	46,046				
単位当たりコスト	計算式等 ()/()								
備考 (これまでの実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	急激な誘客効果は望めないが、事業の積み重ねにより、観光客が増加すると考える。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	誘客のための観光啓発が観光行政の根幹をなす事業であることから、観光の振興に大きく貢献している。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	事業実施に当たっては、単に金額の多寡のみで業務委託できないため、コストの低減は難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		市内の宿泊数増と観光、消費拡大を図るためプレミアム宿泊券を発行する。併せてこれまで全国的な観光PRを展開しているが、首都圏でのシンポジウムをPRイベントと同時開催することで拡大、駅貼ポスターについては掲出場所を再検討し引き続き実施、月刊雑誌への記事広告については2誌に増やし、効果的な誘客を実施することで、大都市圏の潜在的観光客に本市来訪の動機付けを行い、宿泊を伴う誘客へと結び付ける。さらにCIR職員を雇用することで、これまで実施してきたインバウンドバスツアーの内容を充実、SNSによる観光情報の発信、海外旅行雑誌への取材広告記事掲載等によりインバウンドの推進も目指す。また、引き続き中中和広域観光推進協議会により中中和地域の一体的な観光の魅力を発信することで、橿原が中中和観光の拠点としての機能を充実させる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A	
説明		経済効果の高い宿泊を伴う誘客を進めるため、首都圏のインバウンド事業主をターゲットにした効果的な観光PRを実施する。								

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

PLAN 計画	事務事業名	観光利便施設事業								
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人				
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興						
	予算事業名	観光対策費								
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度			
	対象	観光施設		事業の内容説明	①案内道標、観光案内板、道路標識等の設置・管理 ②今井町夢ら咲長屋の借上げ及び夢ら咲長屋、藤原京資料室への案内人の配置 ③観光トイレ等の建物管理 ④奈良文化財研究所藤原宮跡資料室の休日開館に関する案内及び警備業務					
	事業の目的	快適な観光を楽しめるよう観光客の利便性の向上を図ることを目的とする。								
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明								
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
DO 実施	指標の推移	名称及び単位等		25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	施設案内数(夢ら咲長屋・藤原資料室・奈文研)		33,880	35,000	33,892	35,000	36,000	37,000	
	活動指標①	案内道標設置数		123	123	123	123	123	123	
	活動指標②									
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)		11,144	13,855	13,733	29,833			
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源		11,144	13,855	13,733	29,833			
正職員		従事者数(単位:人)	0.55	0.35	0.45	0.60				
		人件費(c)	3,395	2,275	2,925	3,900				
トータルコスト(a)+(c)		14,539	16,130	16,658	33,733					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()									
備考 (これまでの実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	施設での観光案内件数は伸びていることから、成果の向上が認められる。観光道標については、3か年にわたる表示シート張替の1年目にあたり、観光客にわかりやすい表示となり、さらに多言語化によりインバウンド推進の効果が期待できる。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	観光客が迷わず目的地に着き、専門ガイドによる十分な説明を受け、清潔なトイレを利用できることで、観光の振興に大きく貢献する。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	トイレの管理や案内所での案内は、ボランティアの要素が大きく、コスト低減の余地はない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		観光道標、観光案内板、道路標識については、老朽化が進んだものから順に、景観に溶け込み、分かりやすさに重点を置いた整備を継続して実施する。特に観光道標については、経年劣化により判読困難なものが多いことから、多言語化したシートの全数張替をH26から3か年で実施し、インバウンドにも対応する。観光施設については、今後も適正な管理に努めるとともに、不具合が生じた場合には、即対応できるよう引き続き施設の状況を常に把握する。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		
説明		施設の適正な維持管理や運営を継続して行うと共に、観光道標の老朽化したものを整備し、飛鳥地方の統一看板を順次設置することで広域的な周遊観光の実現を目指す。								

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	(一社)観光協会運営・事業助成補助事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興							
	予算事業名	観光対策費									
	事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	一般社団法人 榎原市観光協会			事業の 内容説明	(一社)榎原市観光協会が、観光の担い手となるよう協会の運営や事業に必要な市で定めた額を助成する。 ○榎原市観光協会運営補助金 ○榎原市観光事業補助金(観光ボランティアガイド運営事業・榎原市観光親善大使「さらら姫」の選出並びに運営事業・レンタサイクル運営支援事業・ナビプラザ物販運営補助事業等)					
	事業の目的	(一社)榎原市観光協会が、観光立市を目指す榎原市にふさわしい事業を展開する観光の担い手となるとともに、協会事業により多くの観光客を集客することを目的とする。									
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	・榎原市補助金等交付規則 ・観光施策における行政が観光企画、協会が事業実施という役割分担を進めていくうえで、協会の財政基盤が整っていない現状では、市の関与が必要である。							
市の関与の 必要性を 評価してく ださい		やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明	財政基盤が弱い協会では、人員削減、事業縮小となり、観光の担い手としての役割を果たせない。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)		
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標	協会事業数		30	35	35	37	38	40		
	活動指標①	観光協会HPアクセス数		73,000	80,000	121,000	130,000	135,000	140,000		
	活動指標②	ボランティアガイド案内内容数		7,466	8,000	7,104	8,000	8,100	8,200		
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			22,088	30,562	29,203	26,853			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)								
		(a) - (b) = 一般財源			22,088	30,562	29,203	26,853			
		正職員	従事者数(単位:人)			0.45	0.40	0.45			0.45
			人件費(c)			2,777	2,600	2,925			2,925
		トータルコスト(a)+(c)			24,865	33,162	32,128	29,778			
	単位当 りコスト	計算式等 ()/()									
	備考 (これまでの 実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	人員面での体制強化が図られたことから、急激な発展は望めないが成果は着実に向上している。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	協会は、本市観光施策における事業(誘客事業、観光ボランティア事業、観光親善大使「さらら姫」事業、春の神武祭等)の担い手として観光振興に大きく寄与している。また、HPもリニューアルを行ったことから更なる効果的な情報発信が期待できる。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	協会事業の拡大等により、協会員数の増加や事業収益などが図られれば補助の比率を下げることとなるが現状では難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		協会が本市の観光事業の担い手という役割分担を進めていくうえで、リニューアルしたHPによるさらに多彩な観光情報の発信、観光イベントの開催などを行うことで、より多くの観光客を集め、協会会員数の増加や事業収益の獲得へと結びつけることが可能となり、その結果、財源面での協会の自立を進めることになる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度
説明		プロパー職員の増員が図られ、既存事業を元に、時流に応じ変化に富んだ業務を実施し、観光交流センターを基盤とした情報発信を行っていく。							

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

PLAN
計画

事務事業名	イベント誘致事業								
担当部名	総合政策部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人				
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興						
予算事業名	観光対策費								
事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成		年度		
対象	観光客及び一般の人			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミや電鉄・バス会社、旅行社、地域のNPO団体などが実施するウォークやシンポジウムといったイベントを誘致する。 ・奈良県中南和地域の市町村と連携し、観光情報の発信や普及啓発を行う。 ・フィルムコミッション活動を活発に行い、テレビドラマや映画のロケ地として、本市が舞台となるようにはたらきかけていく。 ・国土交通省や観光庁の補助事業に積極的に応募していく。 				
事業の目的	市以外の多様な主体と連携してイベント等に取り組むことで、本市の歴史的遺産等の魅力を幅広くアピールし、もって多くの潜在的観光客が本市の観光資源に関心を持ち、本市を観光に訪れることを目的とする。								
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい				2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い
			説明 市は人的な応援・支援で積極的に協力がするが、財政的な負担はほとんど行わない。						
		2	説明 マスコミ等が実施する事業については、広報効果が大きいので、事業を実施しないことによる橿原市の露出は減ることになる。						

DO
実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	観光客総数	4,144,101	4,200,000	4,521,130	4,600,000	4,700,000	4,800,000
活動指標①	関連イベント実施件数	13	13	13	14	15	16
活動指標②							
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出(直接事業費)(a)		560	500	564	500	
	歳入(b)	受益者負担額					
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
	(a) - (b) = 一般財源		560	500	564	500	
	正職員	従事者数(単位:人)	0.45	0.50	0.40	0.50	
		人件費(c)	2,777	3,250	2,600	3,250	
	トータルコスト(a)+(c)		3,337	3,750	3,164	3,750	
単位当たりコスト	計算式等 ()/()						
備考 (これまでの実績等)							

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	急激な誘客効果は望めないが、事業の積み重ねにより、本市の知名度が上がり、観光客が増加すると考える。業者間の情報伝達により新たな事業展開や事業手法が取り入れやすくなる。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	多様な主体と連携した観光啓発は、観光行政の根幹をなす事業として、観光の振興に大きく貢献している。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	ほとんどが財政的な負担を伴わない事業であるので軽減の余地はない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		予算措置が伴わない事業であるので、このような内部の統計数値としては注目を集めることが少ないが、事業そのものの効果は大きい。マスコミや諸団体との繋がりを強くすることで、事業を誘致し、観光客を増加させる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	B
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する						
			説明	情報収集方法や事業誘致のノウハウを蓄積する。						

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月3日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	檀原市観光交流センター管理運営業務										
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人						
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち								
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興								
	予算事業名	観光交流センター管理運営費										
	事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成	年度					
	対象	檀原市観光交流センター			事業の 内容説明	複合施設である観光交流センターを管理運営する。 全館の建物管理と観光センター(1・2階)の運営を行う。						
	事業の 目的	大和八木駅前を広域的な観光拠点とすることで、観光客の利便性を向上すると共に、市民交流の場として賑わいを創出することを目的とする。										
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	説明										
		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い							
説明												
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)		
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標	利用者数(全館)			275,600	280,000	284,610	290,000	295,000	300,000		
	活動指標①											
	活動指標②											
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算				
		歳出(直接事業費)(a)			48,655	50,047	50,030	51,917				
		歳入 (b)	受益者負担額									
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)									
		(a) - (b) = 一般財源			48,655	50,047	50,030	51,917				
正職員		従事者数(単位:人)			0.30	0.30	0.25	0.30				
		人件費(c)			1,852	1,950	1,625	1,950				
トータルコスト(a)+(c)			50,507	51,997	51,655	53,867						
単位当 りコスト	計算式等 ()/()											
備考 (これまでの 実績等)												

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	平成23年度4月末の開館以来、想定数以上の利用者があり、一定の効果があがっている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	橿原市に公共交通機関やバスツアー等でこられる観光客の玄関口として機能は高い。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	指定管理者による施設管理によりコスト低減に努めているが、今後は修繕や改良等が必要であり、光熱水費の単価上昇などもあることから削減の余地はあまり無い。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		<ul style="list-style-type: none"> ・開館後4年が経過したので、今までの業務や取り組みを見直し、より効果的な施設運営の手法を確立する。 ・2階イベントスペースでの賑わいの創出や大型LEDビジョンでの観光PR、1階観光センターと物産コーナーの展開等を通して、橿原市を中心に広く奈良県中南和地域の普及啓発や連携事業を実施する。 							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度			
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	引き続き、本市の観光や地域住民の交流の場として賑わいを創出し、快適に利用していただける施設整備を行う。					